

天童荘うなぎ勘治郎

[建物名称] 天童荘うなぎ勘治郎
 [発注者] 株式会社天童荘 / 代表取締役 伊藤 豪
 [用途] 飲食店
 [所在地] 山形県天童市鎌田 2-1-8
 [設計監理] 結城光正一般建築士事務所 / 結城 光正
 [施工] 建築: 米木建設株式会社
 [規模] 構造: 木造
 敷地面積: 352.00 m²
 建築面積: 120.34 m²
 延床面積: 101.02 m²
 階数: 地上1階
 最高高さ: 5.08m
 軒高: 4.95m



前面道路からの眺め(右:天童荘うなぎ勘治郎 左:天童温泉源泉櫓(2021年竣工 同一設計者による)) アプローチは田んぼ、源泉手湯と、見える厨房を巡る



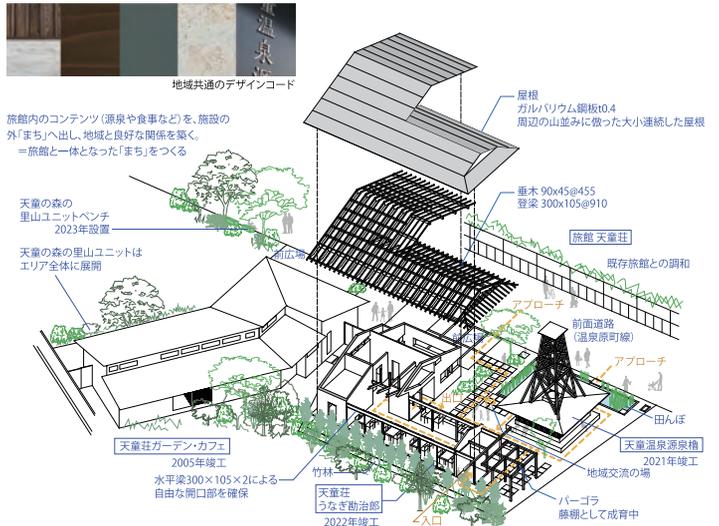
景観を切り取る装置:視線を制御し、内外の関係から風景を形成する大開口



自然換気
 開口2間のリニアな飲食スペース
 一筆書きの動線
 パーゴラ
 採光
 食卓スペース
 アプローチ
 断面図



春 田植え → 夏 まち歩き 天童の歴史を伝える → 秋 稲刈り収穫の風景 → 冬 収穫を祝う例大祭



地域共通のデザインコード
 旅館内のコンテンツ(源泉や食事など)を、施設の外「まち」へ出し、地域と良好な関係を築く。
 一旅館と一体となった「まち」をつくる
 屋根 ガルバリウム鋼板R0.4
 周辺の山並みに合わせた大小連続した屋根
 垂木 90x45@455
 発梁 300x105@910
 旅館 天童荘
 既存旅館との調和
 前面道路(温泉原町跡)
 アプローチ
 田んぼ
 天童温泉源泉櫓
 2021年竣工
 地域交流の場
 天童荘うなぎ勘治郎
 2022年竣工
 入口
 パーゴラ
 藤棚として成育中
 天童荘ガーデン・カフェ
 2005年竣工
 水平梁300×105×21による
 自由な開口部を確保
 竹林

明治10年創業の鰻屋を前身とする、天童温泉の老舗旅館 天童荘が営むうなぎ料理専門店である。コロナ禍において、宿泊客に限らず地域住民にも開かれた建築を目指し、「旅館という一種のバリアに包まれていたコンテンツを、より利用しやすく見える化する」計画とした。従前より、周辺では無秩序な開発により天童らしさが薄れ、景観上の課題が顕在化する一方で、観光客と地域が交わる場が求められていた。こうした背景のもと、本建築は街並みの景観形成の一翼を担うため、その景観を切り取り眺める装置として機能し、相互に見る・見られる関係性を内包した風景を創出する建築を目指した。

敷地は、本申請者が設計監理した天童荘ガーデン・カフェ(2005年竣工)および天童温泉協同組合による天童温泉源泉櫓(2021年竣工)に隣接する。源泉櫓は、田んぼから湧出した温泉を起源とする「田園の温泉」と称される天童温泉の原風景を、水田に立つ櫓として現代的に再現したものである。源泉の保守管理のための櫓は、街の歴史を伝え観光資源を結ぶ「散策拠点」として機能する。さらに周囲には田んぼと、その収穫を祝う神事を新たに設け、地域文化を風景として再構築した。

本建築のアプローチは、櫓と連動した地域交流の場としても機能する。配置は櫓をL字型に囲い、内外の流れを意識した動線計画とした。間口2間のリニアな飲食空間には両側到大開口を設け、庇は高さ2.2m、幅1間分張り出すことで視線の高さを抑え、内外の連続性を確保している。景観に関わる外部素材や仕上げには、地域共通のデザインコード(素材・色彩)を定め、杉板型枠RC打放しや縦格子を採用した。こうして本建築を起点に、地域共通の景観理念に基づく「地域交流の場」は、天童荘ガーデン・カフェや7・8・9号源泉の再整備(2023・24年竣工)と連動し、一連の建築群として地域全体へ形成された(いずれも同一設計者による設計・監修)。最初の取り組みから約20年の歳月を経た現在も、点から線、さらに面へと新たな風景の広がりを持続的に生み出している。